



我が県土
支え育む
希望郷

美しい 県土づくりNEWS

2017年
11月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第160号
平成29年11月30日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 復興道路 三陸沿岸道路「山田宮古道路」・一般県道 宮古山田線「豊間根工区」(山田北ICアクセス)開通!
- 4 【復興支援道路】一般国道281号案内工区が開通!
- 6 復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します!
- 9 閉伊川水門・銚ヶ崎防潮堤現場見学会を開催しました
- 11 宮古市「銚ヶ崎・光岸地まちびらき式」が開催されました
- 13 都市計画全国大会が開催されました
- 14 女性職員向けロールモデル講習会・ICT技術体験セミナー
- 15 平成29年度「命と生活(くらし)を守る新国土づくり研究会」を開催～防災意識社会への転換に向けて国へ提言～
- 16 リノベーションスタディ滝沢 開催報告
- 17 福岡でいわて花巻=福岡線をPR!

復興道路 三陸沿岸道路「山田宮古道路」開通

～東日本大震災津波以降の事業化区間では初の開通～

11月19日、三陸沿岸道路「山田宮古道路」が開通を迎え、地域住民や多くの関係者の列席のもと開通式を開催しました。

山田宮古道路は、復興道路としてかつてないスピードで整備が進められ、震災以降に事業化された区間として初の開通となりました。

今回の約14kmの開通により、山田町と宮古市を結ぶ総延長約27kmの高規格道路がつながり、災害時の信頼性向上や産業振興など、様々なストック効果が期待されます。



石井国土交通大臣や土井復興副大臣、達増知事、宮古市や山田町をはじめとする周辺市町村長、国会議員、県議会議員、地域住民の代表者など、多くの関係者の手により、テープカットとくす玉開きが行われました。

写真提供：三陸国道事務所

復興道路 三陸沿岸道路「山田宮古道路」 一般県道宮古山田線「豊間根工区」(山田北ICアクセス) 開通!

道路建設課、宮古土木センター

平成29年11月19日(日)、宮古市津軽石にて、三陸沿岸道路「山田宮古道路」の開通式を国、県、宮古市及び山田町の共催で開催しました。

式典には、石井国土交通大臣、土井復興副大臣、鈴木東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣、達増知事、山本宮古市長、佐藤山田町長をはじめ、国会議員、県議会議員、地域住民の方々など多数の関係者が出席しました。

国土交通大臣、知事等による挨拶、国会議員の方々から祝辞、企業の代表者から開通に期待する声が発表されました。

その後、テープカットとくす玉開き、開通パレードなど、セレモニーが行われました。



石井国土交通大臣 挨拶



達増知事 挨拶



期待の声 川崎近海汽船(株) 赤沼社長



開通パレード

会場では、パネル展示のほか、宮古高校吹奏楽部による演奏、山田南小学校による虎舞、津軽石小学校によるさんさ踊り、地元協力会によるサケ汁、あわび・かきの蒸し焼きのお振る舞いが行われたほか、ウォーキング大会が同時開催され、開通式典と併せて約1,200名が来場しました。



開通式に駆けつけてくださった地域住民の方々



山田南小学校の生徒さんによる 虎舞



津軽石小学校の生徒さんによる さんさ踊り

今回の開通により、開通済みの山田道路と宮古道路が繋がり、総延長約27kmの高規格道路ネットワークが形成され、津波浸水区域の回避等による**災害時の信頼性の向上**、三陸沿岸道路などを活用した**周遊型観光の振興**、輸送時間短縮による鮮度向上や販路拡大などの**水産業の振興**など、**様々なストック効果が期待**されます。

また、平成31年の「ラグビーワールドカップ2019™」や「(仮称)三陸防災復興博」の開催においても、**円滑なアクセスに大きく寄与することが期待**されます。

県では、**山田北インターチェンジへのアクセス道路**として、**一般県道宮古山田線「豊間根工区」**の整備を進め、山田宮古道路と**同時開通**させました。



山田宮古道路 (開通後)



豊間根工区 (山田北 IC 付近)



豊間根工区 (本線)

【位置図】



【事業概要】

区分	路線	三陸沿岸道路 山田宮古道路	一般県道宮古山田線
区間		山田IC～宮古南IC	豊間根工区
延長		14km	1.3km
車線		2車線	2車線
幅員		7.0(13.5)m	6.0(10.0)m
設計速度		80km/h	50km/h
道路規格		自動車専用道路	一般道
事業期間		H23～H29	H25～H29
事業者		国土交通省	岩手県



【復興支援道路】一般国道281号案内工区が開通！

県北広域振興局土木部

11月19日（日）、県が「復興支援道路」として整備を進めてきた一般国道281号案内工区（L=2.1km）が開通しました。

当日は時折雪が降るあいにくの天候でしたが、遠藤久慈市長、八重樫県北広域振興局長、県議会議員、久慈市議会議員、地権者、久慈市立山形小学校、久慈市立山形中学校の皆さまなど約60人出席のもと、開通式を開催しました。

式典では、主催者による式辞や来賓による祝辞、久慈市立山形中学校2年生18名によるよさこいソーランの披露等が行われました。



八重樫県北広域振興局長 式辞



遠藤久慈市長 祝辞



地域住民や関係者の手による
テープカット、くす玉開き



久慈市立山形中学校2年生による
「よさこいソーラン」披露



高橋県北広域振興局土木部長
事業経過報告



パトカー先導によるパレード

● 道路開通により期待される整備効果

一般国道281号は、盛岡市から岩手町、葛巻町を經由し久慈市に至る広域的な幹線道路であり、地域住民の日常生活や産業を支える路線であるとともに、緊急輸送道路の第1次路線に指定されるなど重要な役割を担っています。道路の改良整備により、次のような効果が期待されます。

効果1 安全で信頼性の高い道路ネットワークの形成

この路線は、東日本大震災津波が発生した際、救急救命活動や救援物資輸送など緊急輸送道路として重要な役割を果たしたことを踏まえ、県の復興計画において復興支援道路と位置付けられています。

今回の整備により、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの強化が図られます。

効果2 安全・安心な通行の確保

当該区間は、急カーブが9箇所連続し、道路幅員は7.0mと狭小で、円滑な除雪に必要なスペースとなる堆雪帯が確保されていないことから、特に冬期間の通行に支障をきたしていました。

今回の整備により、急カーブが解消され幅員が堆雪帯含め9.0mに拡幅されたことにより見通しや走行性が大幅に向上するほか、落石等への対策が必要とされていた法面8箇所を回避したことにより、より安全で安心な通行が確保されます。

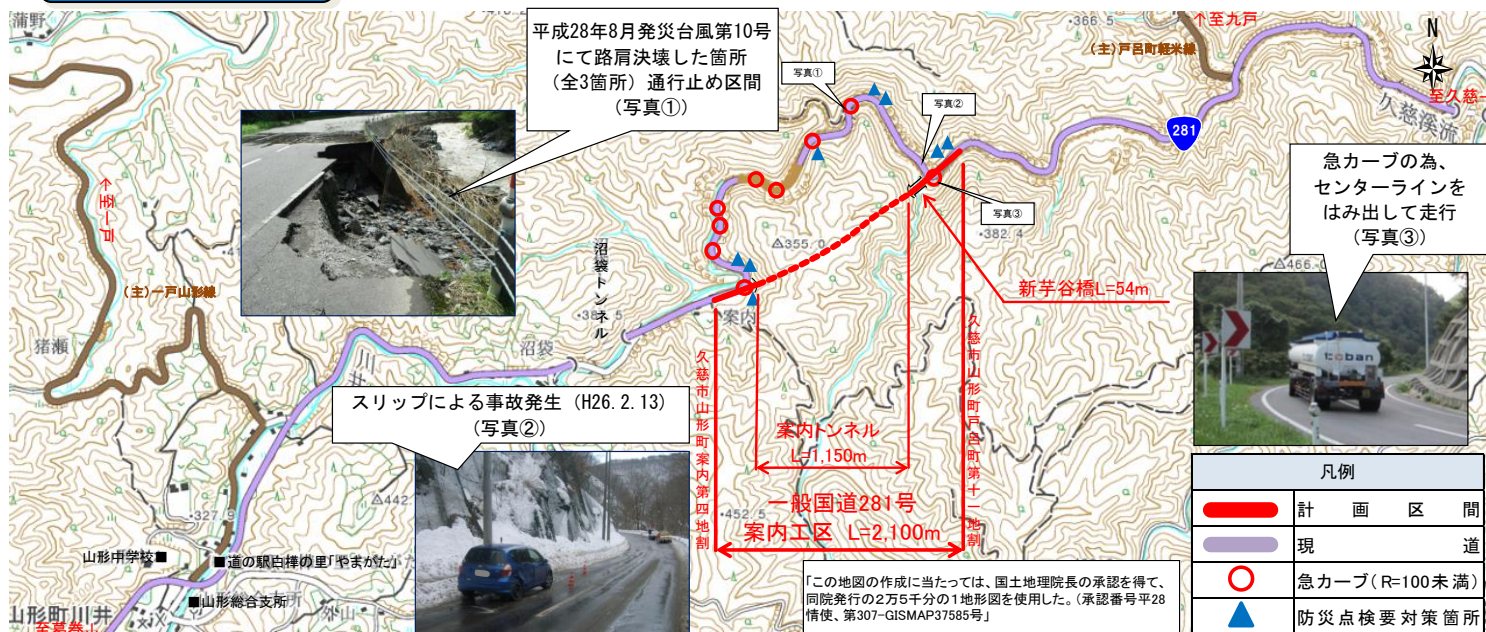
また、1kmの距離短縮(3.1km⇒2.1km)と急カーブの解消等により、約2分の移動時間短縮が見込まれます。

効果3 重要港湾久慈港や救急医療施設へのアクセス向上

重要港湾久慈港と内陸部を結ぶ物流ルートとしてアクセス性が向上し、物流の効率化が期待されます。

また、救命救急センターに指定されている県立久慈病院への主要な搬送ルートとして、患者負担が軽減し、医療施設への安定搬送が図られます。

事業概要図



復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

【第1回】

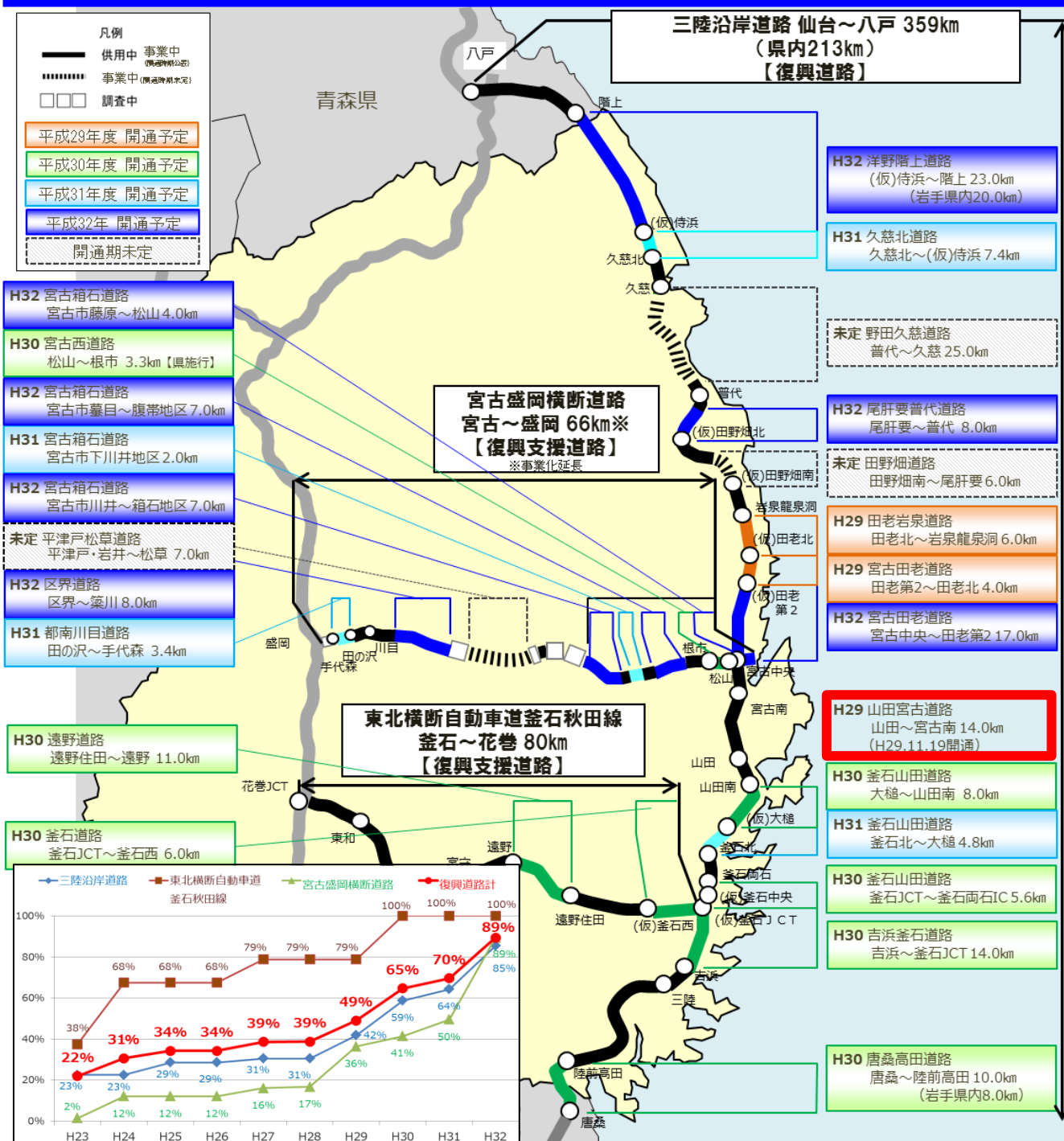
道路建設課

かつてないスピードで整備が進む復興道路等は今年度から開通ラッシュを迎え、平成32年度までに約9割の開通が予定されており、**いよいよ全線開通が現実となってきました。**

復興道路が整備されることで、時間短縮や安全性の向上といった効果が見込まれます。それに伴い、地域間交流の活性化、企業の生産活動や雇用の拡大、家計の所得や消費の増加など**様々な効果が期待**されます。

このような、**社会資本が機能することで得られる様々な効果(ストック効果)**を今号から毎月紹介していきます。

岩手県内の復興道路等の概要



復興道路等の整備による「直接的効果」

復興道路等が整備されると、「直接的効果」として次のような効果が表れます。

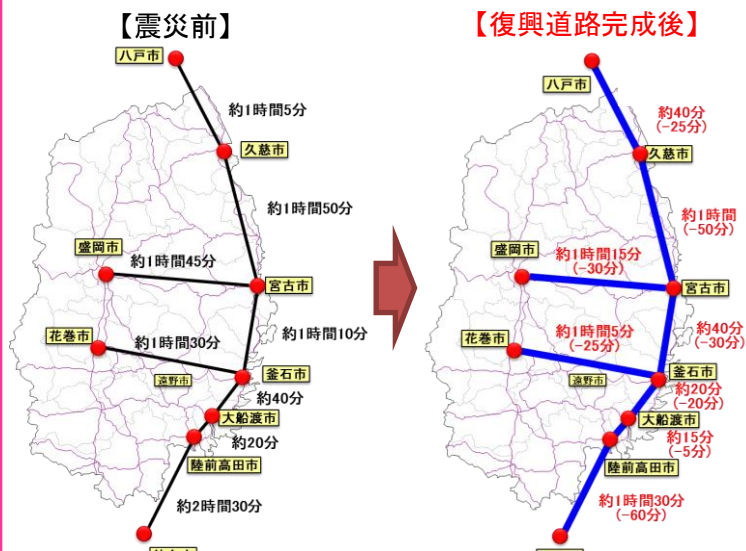
復興道路が
開通すると...



時間短縮	沿岸各都市間、内陸と沿岸の所要時間が短縮されます
災害に強い道路の確保	災害時でも安全で安心な通行が可能となります
走行性、安全性の向上	走行快適性の向上や交通事故の減少に寄与します
その他の効果	渋滞解消（交通の分散）、走行経費の削減 など

都市間所要時間の短縮

復興道路等の完成により、主要都市間の所要時間が大幅に短縮



区間	震災前	完成後	短縮時間
仙台市～八戸市	7時間35分	4時間25分	-3時間25分
盛岡市～宮古市	1時間45分	1時間15分	-30分
花巻市～釜石市	1時間30分	1時間5分	-25分

・各都市間の起終点は、各都市最寄りのIC
 ・震災前はH22道路交通センサスより算出（データの無い区間は規制速度等）
 ・復興道路整備区間は、道路構造に応じた速度（70～80km/h）により算出

災害に強い道路構造

山沿いへのルート選定や沿岸部を高さのある橋梁にすることで、津波浸水区域を回避することができます。
 三陸沿岸道路はこれらにより津波浸水区域を通過しない、災害に強い道路として整備が進められています。



津波浸水区域を回避したルートを選定



高さのある橋梁により津波浸水域を通過

走行性、安全性の向上

- 復興道路等の整備により、急勾配や急カーブが解消され、救急搬送における患者や車両を運転するドライバーの負担やトラック輸送による荷傷みが軽減されます。
- 峠道の解消やトンネル化により冬期間における安全な通行が図られます。



その他の効果

- 今まで市街地の一般道を走っていた通過交通が、復興道路等を利用することにより、交通が分散し、渋滞の解消に繋がります。
- 復興道路等を走行することにより、燃費が向上し、走行経費の削減が図られます。

次ページでは、地域への波及効果の事例を紹介します。
 第1回目は「三陸沿岸地域の観光振興」です。

ストック効果事例 三陸沿岸地域の『観光振興』

岩手県の観光

- 沿岸には、三陸復興国立公園や三陸ジオパークなど様々な観光資源が存在します。
- 岩手県の外国人観光客の入込数は増加傾向にあり、ラグビーワールドカップ 2019™の開催など、今後ますます増加することが見込まれます。

三陸復興国立公園、三陸ジオパーク



浄土ヶ浜 (宮古市)



碁石海岸 (大船渡市)

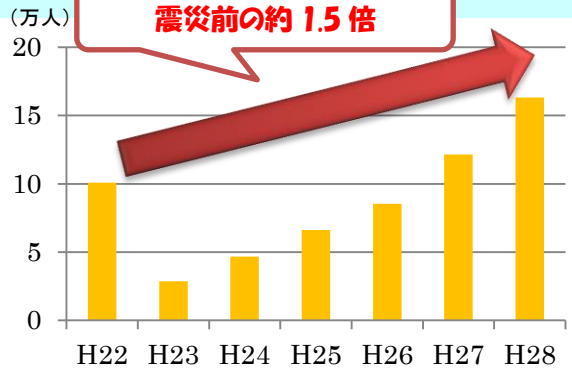


龍泉洞 (岩泉町)



北山崎 (田野畑村)

外国人観光客の岩手県への入込数



復興道路等の整備により見込まれる観光面でのストック効果



内陸部～沿岸部のアクセスが向上し、**周遊型観光の活性化**に繋がります。

宮古港と室蘭港を結ぶ**フェリー定期航路**と連携した**広域的な交流連携・観光振興**が図られます。

いわて花巻空港と連携した**訪日観光客(インバウンド)の引き込み**に繋がります。

閉伊川水門・鍬ヶ崎防潮堤 現場見学会を開催しました



沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター

東日本大震災津波により甚大な被害を受けた宮古市閉伊川河口部では、現在、津波防御施設として水門や防潮堤の整備を進めています。

地域の皆様に工事内容や進捗状況について理解を深めていただくため、10月25日に現場見学会を開催しました。



当日は、天候にも恵まれ多くの方々に参加いただきました。昨年の台風10号以降、現場見学会の開催を見送っていましたが、この間の着実な工事進捗について説明させていただきました。工事の早期完成を望む声も多数あり、事業への関心の高さを実感しました。



水門現場事務所



防潮堤工事の現場

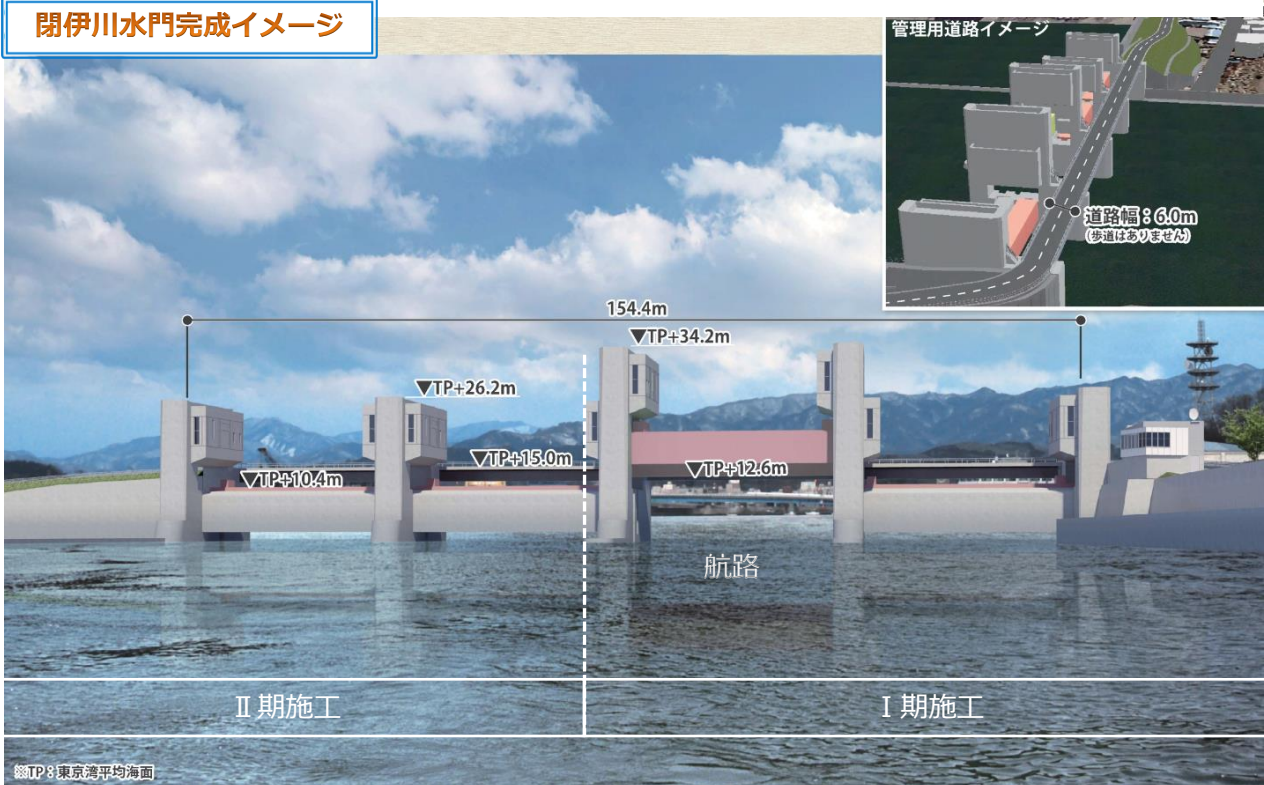
鉾ヶ崎防潮堤（避難橋）完成イメージ



鉾ヶ崎地区については、道の駅に指定されている「シートピアなあと」や「宮古市魚市場」など多くの人が集まる施設があります。このことから、非常時には速やかに宮古市指定の避難場所に避難出来るよう避難橋の整備を行います。

今後も、様々な場で情報発信を行い、防潮堤事業に対し理解を深めていただくよう努めてまいります。

閉伊川水門完成イメージ



現在、水門本体の基礎杭を施工しており、I期施工では約700本の杭を打設します。今年度中に杭の施工が完了し、来年度からは水門本体のコンクリートの打設が始まる予定です。

今後も、工事の進捗状況を踏まえ現場見学会を開催していく予定です。

なお、現場見学は随時可能ですので、希望される場合はお気軽にお問い合わせください。

【復興まちづくり課 0193-65-0032 (内 393)】



宮古市「鋤ヶ崎・光岸地まちびらき記念式」 が開催されました

都市計画課

10月28日、宮古市の鋤ヶ崎・光岸地地区土地区画整理事業等が概成したことから、宮古市主催でまちびらき記念式等が開催されました。

＜ 鋤ヶ崎・光岸地まちびらき記念式の概要 ＞

記念式では、国、県、市、地域の代表者や事業関係者等約 200 名が出席し、事業の経過報告や地元の中学生による作文朗読等が行われました。

記念式の後は、復興事業情報発信フォーラムも開催され、震災直後から復興まちづくりの総合アドバイザーとして継続的に宮古市を支援している東京工業大学副学長の屋井鉄雄氏による講演や、地域代表者や事業関係者によるパネルディスカッションが行われました。

＜ まちびらき記念式の様子 ＞



鋤ヶ崎小学校児童による「賛歌」の合唱



山本宮古市長による主催者挨拶



吉野復興大臣による来賓祝辞



地元中学生による作文朗読



東京工業大学副学長屋井鉄雄氏による講演



パネルディスカッションの様子

< 鍬ヶ崎・光岸地地区土地区画整理事業の事業概要 >

(1) 事業目的

宮古市鍬ヶ崎・光岸地地区は、宮古港に面する平坦地と周辺の緩傾斜地からなり、古くから漁業・水産加工業が盛んで、漁業の町として栄えた地区ですが、東日本大震災津波により壊滅的な被害を受けました。

このため、土地区画整理事業により、基盤整備や市街地の整備を一体的に行い、東日本大震災津波からの早期の復興を図っているものです。

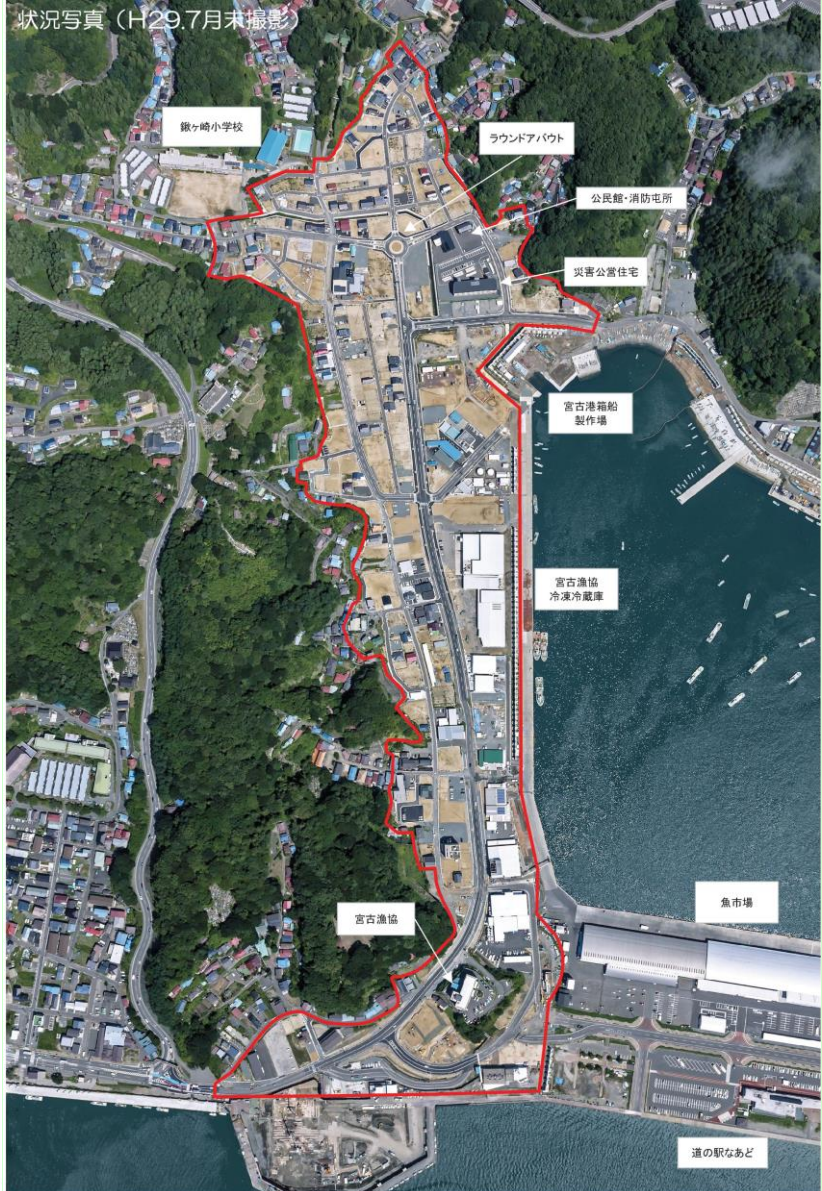
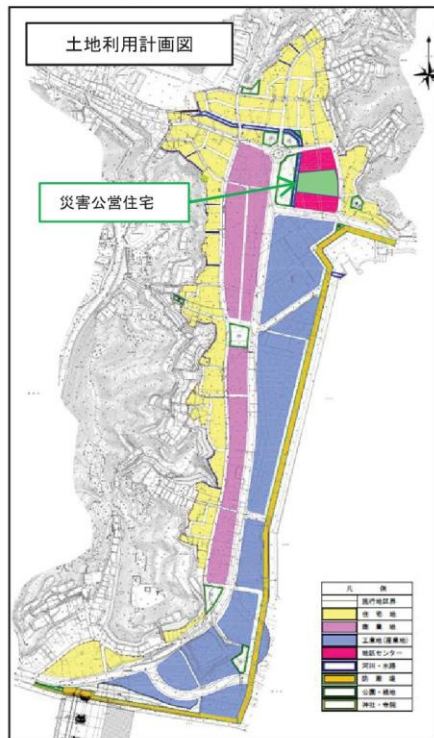
(2) 事業概要

ア 事業期間：平成 25～34 年度（清算期間5年を含む）

イ 全体面積：約 23.8ha

ウ 総事業費：約 131 億円

エ 対象戸数：270 戸（民 230 戸、公 40 戸）



都市計画全国大会が開催されました

都市計画課

第69回都市計画全国大会が、11月16日から17日にかけて、本県を会場に開かれました（本県では39年ぶり2回目の開催）。

大会には、全国から都市計画行政関係者等約800人が参加しました。

16日は、盛岡市民文化ホール（マリオス）などで、関係者への表彰や講演などが行われたあと、各部会に分かれて先進市町村の事例発表等が行われ、活発に議論されました。

また、17日は、県内3コース（「紫波・平泉コース」「復興 宮古コース」「復興 陸前高田・大船渡コース」）に分かれ、現地調査を行いました。

全国から参集した方々から好評のお言葉をいただき、成功裏に終わることができました。

開会宣言
(中野県土整備部長)



開催県挨拶
(千葉副知事)



記念講演「駅を中心としたまちづくり」
(東日本旅客鉄道株式会社 浅見郁樹 常務執行役員)



表彰式



都市計画協会会長賞として、
・盛岡市「盛南開発による北東北の拠点づくり」
・紫波町「公民連携手法を導入したまちづくり『オガール・プロジェクト』」
・花巻市 立地適正化計画による「高齢者・大人と若者・子供が生活圏を共有するまち」に向けた取組が表彰されました。

また、東日本大震災津波からの復興に取り組む都市計画区域を有する沿岸9市町村に、会長特別賞が贈られました。

主報告「都市行政をめぐる最近の動き」
(国土交通省 榑真一 大臣官房審議官)



全国の都市が置かれている現状や今後直面する様々な課題、国土交通省が重点施策として進めているコンパクト・プラス・ネットワークの全国各地での取組状況についての報告をいただきました。

また、平成29年6月に一部施行された都市緑地法等の一部改正の概要についても御紹介いただきました。

女性職員向け ロールモデル講習会・ICT技術体験セミナー

～いわて女性の活躍促進連携会議 けんせつ小町部会の取組～

建設技術振興課

11月6日、建設研修センターにおいて、「いわて女性の活躍促進連携会議けんせつ小町部会」主催のロールモデル講習会・ICT技術体験セミナーを開催しました。

当日は、岩手県建設業協会や岩手県電業協会、岩手県測量設計業協会の会員や岩手中央職業訓練協会の職員等50名以上の方々に御参加いただきました。



代表あいさつ
(建設技術振興課菊池総括課長、(一社)岩手県建設産業団体連合会 山口総務課長)

1 ロールモデル講習会

(一社)ソーシャルテクニカ代表理事の田村裕美さんから、「道の向こう」というテーマで、これまで歩んできた道のりや女性を取り巻く現状とこれからについて、国際的な視点も踏まえて御講演いただきました。ジェンダー・ギャップ指数や技術士会の統計データなどを交えた講演はとてもわかりやすく、客観的データに基づいた説得力のある伝え方についても勉強になりました。



講師：田村裕美さん
(一社)ソーシャルテクニカ代表理事

2 ICT技術体験型セミナー

4種類の講習（VR体験講習、3Dソフト体験、ドローン体験、マッスルスーツ体験）を参加者全員が体験できるように、4ブースを一定時間で交代しながら開催しました。参加者の方々は周りの方と談笑しながら、興味津々で最新技術を体験していました。



VR体験講習
南昌荘の庭園と国立天文台水沢の遊学館をVRで散歩
(協力：(株)恵PCM)



3Dソフト体験
3DCADによるスマホスタンドの編集作業
(協力：(株)恵PCM)



ドローン体験
ドローンシミュレーターによる操縦体験や小型ドローンの操縦体験
(協力：(株)タックエンジニアリング)



マッスルスーツ作業体験
マッスルスーツを装着してのダンボール持ち運び作業
(協力：(株)サンメディカル)

平成 29 年度「命と生活を守る新国土づくり研究会」を開催 ～防災意識社会への転換に向けて国へ提言～

河川課

本研究会は、洪水、土砂災害等から人命、財産を守り、安全で安心して暮らせる国土をつくること等を目的として、10 府県の知事により平成 6 年に発足した組織で、現在は本県を含め、11 県の知事により構成されています。

(構成県) 岩手県、宮城県、埼玉県、富山県、福井県、岐阜県、兵庫県、島根県、徳島県、長崎県、鹿児島県

今年で 21 回目となる本研究会は、「防災意識社会への転換に向けて～大規模自然災害から命と生活を守るために～」を研究テーマとし、牧野国土交通副大臣を迎え開催されました。

研究会の冒頭では、飯泉徳島県知事及び達増岩手県知事から、牧野副大臣及び秋本政務官へ、「防災意識社会への転換に向け、水害や土砂災害などの予防対策に必要な予算確保」などの 9 つの要望項目をとりまとめた提言書を手交しました。



国土交通副大臣へ提言書の手交

(提言書抜粋)

- 一 再度災害防止や予防的な治水対策としての適切な河道管理のため、治水上著しく支障となる土砂・流木の除去や伐木に対して、財政面で積極的に支援すること。

続く意見発表では、達増知事から、昨年 8 月の台風第 10 号災害を踏まえた、本県の治水対策や土砂災害対策の現状及び課題の紹介、これらに必要な予算の確保や制度拡充に関する国への要望について発言しました。

また、その後の自由討論では、「中小河川の氾濫による災害は、ますます気をつけなければならないという中で、河道掘削や立ち木伐採などの河道の維持管理への国の財政支援がより差し迫った課題になっている。」との発言も行いました。



達増知事による意見発表

【開催概要】

- 開催日時 平成 29 年 11 月 9 日 (木) 12:00～12:45
- 研究テーマ 防災意識社会への転換に向けて
～大規模自然災害から命と生活を守るために～
- 出席者
 - 国土交通省 牧野国土交通副大臣、秋本国土交通大臣政務官、吉田国土交通審議官、山田水管理・国土保全局長等
 - 構成県 徳島県 飯泉知事 (会長)、岩手県 達増知事 (副会長)、富山県 山崎副知事、福井県 山田副知事、兵庫県 荒木副知事

リノベーションスタディ 滝沢

開催報告【建築住宅課】

平成29年11月7日（火）～8日（水）



リノベーションスタディとは：

行政が所有する遊休公共空間を題材に、民間と行政が共同で、地域の課題を解決するとともにエリアの価値を上げる「ビジネス」を興すこと

今回の「リノベーションスタディ」は、**滝沢市所有で現在閉鎖中の公共施設「お山の湯」**を題材に、2日間にわたり開催しました。

岡崎正信氏（一般社団法人公民連携事業機構）を総括責任者とし、岩手県及び秋田県で実際にまちづくりに取り組んでいる、桑原宏治氏（FARM ON THE TABLE）、東海林諭宣氏（株式会社シービジョンズ）、小堀薫子氏（株式会社祥薫 company）の3名の講師が受講者の指導に当たりました。

スタディでは、受講者は民間人と公務員混成による3つのユニットに分けられ、各ユニットが講師と共にエリアを変えるビジネスをとことん考え、事業計画を組み立てるとそれを実現するために必要な法令や手続きについても検討しました。

検討の結果は公開でプレゼンテーションを行い、次のような事業計画が提案されました。

《ユニットA》

建物は厨房のみ使用することで賃借料を抑えつつ、駐車場に配置したテントとプロジェクションマッピングを駆使した演出により、特別な日のための飲食を楽しむ場とする案

《ユニットB》

生ハムを製造・販売し収益を得ながら、自然を生かしたアクティビティの提供、アウトドアショップやカフェの経営を行う案

《ユニットC》

周辺の牧草地を季節の花を楽しむ空間として活用し、宿泊やカブトムシの養殖、木工アート等の自然体験を提供するとともに、将来的な建物の解体費用を積み立てる案

リノベーションスタディは、ただ検討して終わるワークショップではありません。これから事業化を目指して動き出すこととなります。これからの「お山の湯」そして滝沢市の変化をお楽しみに。そして、興味があれば、ぜひこのプロジェクトに参画してください。



福岡でいわて花巻＝福岡線をPR！

空港課

11月13日、福岡線利用促進PRキャラバン隊が福岡県内の関係機関を訪問し、岩手県の魅力や福岡線の路線PRを行いました。

岩手まるごとおもてなし隊やミスさんさ踊りも参加し、福岡県庁や福岡市などへの訪問のほか、地元ラジオ番組に出演してのPRも行いました。

福岡線は10月29日から機材が大型化されたところです。(ボンバルディアCRJ200: 50席⇒エンブラエル170:76席)

県では、今後も更なる利用促進に向けて取り組んでいきます。

【福岡線利用促進PRキャラバンの概要】

月 日：平成29年11月13日(月)

主 催：岩手県、岩手県空港利用促進協議会

団 長：齋藤雅博(岩手県商工会議所連合会 副会長)

副 団 長：中野穰治(岩手県県土整備部長)

構成団体：岩手県、花巻市、花巻商工会議所、岩手県空港ターミナルビル(株)、日本航空(株)、岩手まるごとおもてなし隊、ミスさんさ踊り、岩手県空港利用促進協議会事務局(岩手県県土整備部空港課)

訪 問 先：福岡県、福岡市、福岡商工会議所、JAL福岡地区販売部、マスコミ各社



福岡県庁 訪問の様子



福岡市 記念撮影の様子



JAL福岡地区販売部 記念撮影の様子



RKB毎日放送 おもてなし隊が出演

10/29 福岡線 機材大型化！！

